

穀物ソリューション・カンパニー

# SHOWA

昭和産業



# CSR REPORT 2018

昭和産業株式会社

## グループ経営理念

# 人々の健康で豊かな食生活に貢献する

昭和産業グループは、設立当時から「食」を通じた社会への貢献を志してきました。これからも、「穀物ソリューション・カンパニー」として、穀物の力を最大限に生かし、人々の「健康」「おいしさ」「便利」に貢献し続けます。

### 【方針】

昭和産業グループならではの複合系シナジーソリューションを進化させると共に、ESG視点<sup>※</sup>での取り組みも強化し、企業価値の向上に努めます。

※ ESG視点は、ESGは、環境（Environment）、社会（Social）、ガバナンス（Governance）の頭文字をとったもので、企業の長期的な成長のためには、ESGが示す3つの視点が必要であるという考え方です。財務情報と同様にESGは企業に対する投資判断基準の一つとなっています。

### 昭和産業の歴史

「食を通じて人々の暮らしを豊かにしたい」  
創業者の志とDNAを受け継ぎ、80年企業に、90年、100年とこれからも



1936 (昭和11年) 伊藤英夫が「昭和産業株式会社」設立  
本店を宮城県宮城郡多賀城村に登記

凶作が続き疲弊した農村を目の当たりにした伊藤は「日本の農業を支えたい」と一念発起。「農産報国」を旗印に昭和産業を立ち上げました。

#### 挑戦と創造の精神

失敗を恐れずに変革に挑戦し続ける逞しい精神は、「SHOWA魂」として現在も受け継がれています。



「昭和のホットケーキの素」発売（1957）  
日本で初めての天ぷら粉  
「昭和即席天ぷら粉」国内発売（1961）



### 編集方針

昭和産業グループの経営理念である「人々の健康で豊かな食生活に貢献する」ことを基本に、ステークホルダーの皆様へ「食」を中心とした様々な場面における当社の活動について、幅広く、分かりやすくお伝えすることに努めました。  
また、より多くの方にご覧いただくために、当レポートの内容は、過去のレポートとともにホームページ上にも掲載しています。  
<https://www.showa-sangyo.co.jp/csr/>

- 対象組織  
昭和産業グループ  
(2018年3月31日時点)  
具体的な活動内容については、主に昭和産業株式会社単体について報告しています。
- 対象期間  
2017年度(2017年4月1日～2018年3月31日)の活動を中心に、事業概要や新たな長期ビジョンなど、一部に最新の情報を含め報告しています。
- 発行日  
2018年10月
- 参考としたガイドライン  
・環境省「環境報告ガイドライン(2012年版)」

### 目次

- 1 グループ経営理念・昭和産業の歴史・編集方針
- 3 事業紹介
- 4 トップインタビュー
- 7 **特集 ①**  
社員一人ひとりが健康でイキイキと働ける会社の実現を目指して
- 9 **特集 ②**  
「健康志向」の新商品開発 – “穀物の力”と“技術力”の融合–
- 11 昭和産業グループのCSR
- 13 CSR活動方針と2017年度実績
- 15 製品の安全・安心
- 17 従業員との関わり
- 19 社会との関わり(社会貢献)
- 23 環境への配慮
- 25 コーポレートガバナンス
- 27 リスクマネジメント
- 28 コンプライアンス
- 29 データ集
- 32 会社概要



- 1961 (昭和36年) 鶴見工場竣工により、我が国最初の臨海食品コンビナート完成
- 1965 (昭和40年) 船橋食品コンビナート完成
- 1967 (昭和42年) 神戸工場竣工
- 1974 (昭和49年) 鹿島工場竣工



家庭用高級天ぷら粉「天ぷら粉黄金」発売（1983）

- 1992 (平成4年) 「イソマルトオリゴ糖」が特定保健用食品の素材として承認



特定保健用食品「オリゴタイム」発売（1994）

- 2014 (平成26年) 企業ブランドメッセージ「穀物ソリューション・カンパニー」発表
- 2016 (平成28年) RD&Eセンター開設  
創立80周年を機に企業ブランドロゴを変更
- 2017 (平成29年) 長期ビジョン「SHOWA Next Stage for 2025」を発表



## 世界の穀物を日本の食卓へ

食品メーカーとして日本一の穀物取扱量<sup>※</sup>で食卓を支えます。  
多種多量の穀物を数々の製品に加工し、お客様にお届けします。

※当社調べ（2018年現在）

### 事業紹介

- 製粉事業  
パン・ケーキ・麺類などの用途に合わせた各種小麦粉や、ユーザーのニーズに対応したプレミックスなどを提供しています。
- 油脂食品事業  
業務用植物油・脱脂大豆・大豆たん白・業務用食材としてのプレミックス・パスタを提供しています。  
小麦粉・天ぷら粉などのプレミックス・植物油・パスタ・健康食品・ギフトセットなどの家庭用食品を提供しています。
- 糖質事業  
コーンスターチ・加工でん粉および水あめ・ぶどう糖・異性化糖などの各種糖化製品を提供しています。
- 飼料事業  
養鶏・養豚・乳牛・肉牛・養魚用配合飼料の提供や、鶏卵の販売などを行っています。
- 倉庫事業  
臨海工場の立地を生かし、輸入穀物の保管・荷役などを行っています。また、冷蔵・冷凍倉庫も行っていきます。
- 不動産事業  
工場跡地などの遊休不動産の有効活用に取り組むとともに、商業施設の開発や、ビル賃貸事業などを行っています。



# “穀物ソリューション・カンパニー”として 食を通じて社会課題の解決に貢献します



昭和産業株式会社 代表取締役社長

新妻 一彦

**Q1** 2025年に向けた長期ビジョンと行動指針についてお聞かせください。

**A1** 創業者の想いである“挑戦と創造の精神”を新たなイノベーションにつなげるための行動指針として「SHOWA魂（だましひ）」を制定しました。

1936年の創業当時は非常に貧しい時代でした。創業には「人々の食生活を少しでも豊かにしたい」という強い想いがあり、それが今日の当社グループの経営理念である「人々の健康で豊かな食生活に貢献する」につながっています。また、昭和30～40年代に船橋、神戸、鹿島に当時としては画期的だった食品コンビナートを築いたのは、今後、食品原料は輸入が主力になるという将来を見据えての決断でした。こうした諸先輩の事業にかけ強い想いを私たちが引き継ぎ、80周年を迎えることができました。そして、今後当社がさらに90年、100年を迎えるにはさらなる持続的成長のためのイノベーションが必要だと考え、2017年に長期ビジョンと

して発表しました。  
長期ビジョンを実現するためには、創業者の想いである“挑戦と創造の精神”を、さらに発展させる必要があります。昭和産業グループの従業員一人ひとりがイキイキと仕事に取り組み、持てる力を結集し、イノベーションに挑戦しようとする熱い想いを、当社にふさわしい言葉として「SHOWA魂」と名付けました。誠実な行動・力の結集・多様性の尊重を掲げ、皆様に満足を提供する穀物ソリューション・カンパニーとして、これからも社会的責任を果たしていきます。これは当社のCSR経営の根幹をなす行動指針です。

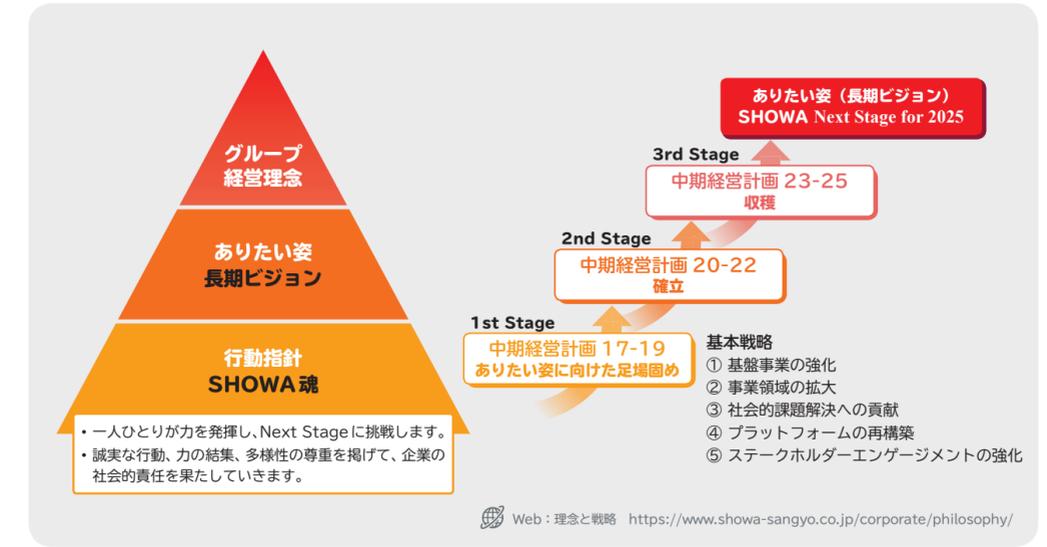
**Q2** 中期経営計画のファーストステージ基本戦略における優先課題は何でしょうか？

**A2** それはESG経営の推進です。株主の皆様をはじめとする全てのステークホルダーとのコミュニケーションを強化します。

まず、環境（E）に配慮した取り組みの強化としては、CO<sub>2</sub>削減目標や食品ロスの削減などを優先的に推進します。

現在、社内目標であるCO<sub>2</sub>排出量原単位削減の2020年達成目標については、外部にも明確に示すことで当社のコミットメントとして取り組みを強化していきます。また、水資源の有限性についても重大な問題と認識しています。世界から穀物を輸入している穀物ソリューション・カンパニーである当社は、大量の仮想水を輸入している、という考え方のもと、一粒の穀物を余すところなく活用していますが、これはまさに、地球上の水資源の有効利用にもつながると考えているからです。当社は原料から生じる副産物についても有効活用しており、99.9%の資源化を実現しています。今後もこれを維持していきます。

食品メーカーとしては、食品ロスも配慮すべき重要な課題と認識しており、食品ロス削減を実現する商慣習の見直しなどにも取り組んでいます。官民における検討結果を踏まえ、賞味期限の月単位での表示や賞味期限の延長などにも取り組んでいます。



います。具体的には2017年の株主総会での決議を踏まえた監査等委員会設置会社への移行や企業業績と連動する役員報酬規程の制定などを行いました。社会的な要請

だけでなく、当社としての企業統治のあるべき姿を目指して今後も改善を継続していきます。

**Q3** 食品メーカーである昭和産業グループにとってのCSRとは？

**A3** “穀物ソリューション・カンパニー”として食に関する事業活動を通じて社会に貢献していくことです。

国連SDGsなどで示されているように、世界各地での食料問題や地球規模での環境問題など、考慮すべき社会課題は数多くあります。当社グループとしてはまず、環境への負荷を最小化する取り組みを徹底していきます。

さらには“穀物ソリューション・カンパニー”として、食を通じた幅広い事業と関連する課題や分野において社会に貢献することを基軸にしていきたいと考えています。例えば、健康寿命の延伸です。このテーマは私たち食品業界に課せられた社会的使命と考えています。日々の食卓でおいしく食べられ、かつ健康にも役立つ商品を提供することによって、人々の健康に貢献し、その結果、社会保障費の低減にも貢献することができると考えています。こうした取り組みにはイノベーションが必要です。長期ビジョンの行動指針「SHOWA魂」

を従業員一人ひとりが抱きつつ、新たな挑戦と創造の精神を大いに発揮することにより、新たなイノベーションを起こしていきます。



# 社員一人ひとりが健康でイキイキと働ける会社の実現を目指して

CSR行動規範に基づき、「昭和産業健康宣言」と「女性の活躍推進 行動宣言」を定めました。多様な価値観を生かし、それぞれの能力を最大限に発揮できる環境を整備することで、社員一人ひとりの生産性の向上を実現します。



## 「社員の健康ファースト」と「働き方改革の推進」を宣言しました

### 【昭和産業健康宣言】

#### ① 「社員の健康ファースト」の企業風土醸成

社員の健康の増進を推進することで、「社員の健康が第一」の企業風土を醸成します。

#### ② 働き方改革の推進

ワーク・ライフ・バランスを実現することで、社員一人ひとりが健康でイキイキと働ける会社を目指します。

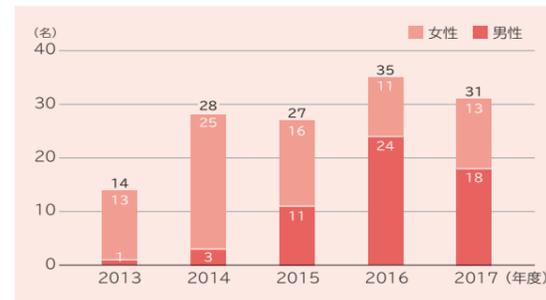
昭和産業は、グループ経営理念の実現のためには、何よりもまず社員の健康が大切であると考え、2017年に「昭和産業健康宣言」を発表しました。社長自らが「社員の健康ファースト」と宣言することで、社員の健康意識の醸成と、ワーク・ライフ・バランスを通じたより働きやすい会社となることを目指します。

### ■ ワーク・ライフ・バランスの推進

限られた時間のなかでより高い生産性を発揮できる組織づくりのため、働きやすい職場環境の整備を進めています。仕事と育児・介護の両立へのサポートを重点課題としており、育児休業制度や介護休業制度などの仕組みとともに、復職後の就労環境の整備にも取り組んでいます。

その結果、男女共に多くの社員が育児休業を取得し、復職後も短時間勤務などを利用しながら活躍しています。

### □ 育児休業取得者数（男女）の推移



### □ 育児短時間勤務者数（女性）の推移



### ✓ 食堂で「健康チェック」

健康促進の意識向上をねらい、船橋工場では社員食堂で「ヘモグロビンチェック」のイベントを行いました。当日は、鉄分豊富なメニューもそろえ、ヘモグロビン不足と思われる方におすすめしました。多くの従業員が参加し、好評でした。



### 女性の活躍推進 行動宣言

2016年2月発表

昭和産業は、「CSR行動規範」の「人権に関する取り組み基本方針」に則り、「女性がイキイキと働き、それぞれの能力を最大限に発揮できる環境整備」を推進します。

その実現のため

1. 多様性推進について、経営者の方針の周知と職場風土の改善を行います。
2. 育児や介護などを経て、活躍し続ける職場環境を醸成します。
3. 女性リーダー層の育成を推進します。

### 女性の活躍推進に向けた行動計画

2016年3月発表

1. 計画期間：2016年4月1日～2019年3月31日（3年間）
2. 内容：
  - 目標1 新卒採用（学卒）に占める女性の割合を50%以上にする。
  - 目標2 全社で女性活躍を推進する職場風土を醸成する。
  - 目標3 生産性の高い働き方を促し、組織運営体制を見直す意識改革を図る。

## プロジェクトの成果を生かし、女性活躍を推進していきます

昭和産業は女性活躍推進を経営戦略の一つとして位置づけ、2017年7月に『女性活躍推進プロジェクト』を立ち上げました。

プロジェクトメンバーは自発的な参画であり、年代・勤務地・育児経験・転職経験が異なる多様なバックグラウンドを持つ女性社員のみ6名となりました。

このプロジェクトは、昭和産業の女性社員のうち、育児や介護などの制約がある人でもより高いステージへの挑戦意欲が持てるよう、その阻害要因となっている女性特有の課題を踏まえた具体的施策を経営に提言することを目的としました。

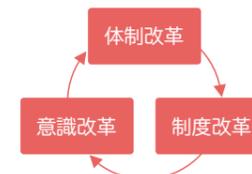


キックオフミーティングでは、社長より「昭和産業の持続的な発展のために、女性自身が考える経営への提言を期待しています」との激励の言葉がありました。

### ■ 女性活躍推進プロジェクトの成果

先進企業の訪問や事例研究、社員へのアンケートなどを行い、ありたい姿の実現に向けた議論をしてきました。これを『昭和産業の「働き方改革」実行に向けた6つの提言』としてまとめ、プロジェクトメンバーより2018年2月の経営会議に報告しました。体制改革・意識改革・制度改革の3本柱からなり、この3つを同時に高めていくことが必須と考えています。

この提言を受け、2018年8月には全役員と部署長を対象に、専門家によるセミナーを実施しました。



### □ 昭和産業の「働き方改革」実行に向けた6つの提言

体制改革

#### 【提言①】

『女性活躍推進のためのPDCA体制の確立』  
 ▶ 社長トップダウンのもと、人事部を中心にダイバーシティを継続的に推進する

意識改革

#### 【提言②】

『女性社員の意識改革』  
 ▶ 社内外女性ロールモデル（管理職）との交流、管理職の魅力やメリットを伝えるセミナーの実施

#### 【提言③】

『男性社員の意識改革』  
 ▶ 女性社員向け上司同伴キャリアデザイン研修・復職者上司向けセミナー（制約のある部下の育成について）の実施

制度改革

#### 【提言④】

『テレワーク・フレックス制度の導入』  
 ▶ 長時間にわたる時間的制約（育児・介護など）を軽減し、モチベーションや生産性向上につなげる

#### 【提言⑤】

『早期異動制度の導入』（10年3部署）  
 ▶ ライフイベント前に転居を伴う複数部署を経験することによるキャリア選択幅の拡大

#### 【提言⑥】

『地域限定総合職や転勤一時回避制度の導入』  
 ▶ 「転居ができない」という制約のある人でも、モチベーション高くキャリア形成ができる環境の整備

### 【プロジェクトリーダーから】

#### ダイバーシティ推進は生産性の向上につながります

女性活躍が進んでいる企業への訪問などで、社内外の皆さんとの関係づくりができたことをはじめ、多くの貴重な体験をさせていただきました。そのなかで感じたことは、女性だけでなく、いろいろな制約がある人々が活躍することが必要ということ。ダイバーシティの推進が、結果として生産性の向上につながることを実感しました。この実感を皆さんに伝えていくことが、プロジェクトメンバーの役割だと考えています。



基盤技術研究所 知的財産室  
伊藤 由佳理

# 「健康志向」の 新商品開発

## —“穀物の力”と“技術力”の融合—

穀物の力を最大限に生かし、人々の日々の食卓のなかに「健康」と「おいしさ」を、そしてこれらを手軽に楽しく得られる「便利」さを、お届けできる商品の開発を進めています。



### 健康志向の高まりと穀物ソリューション

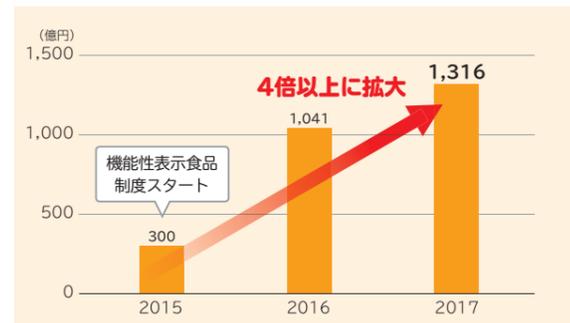
消費者の食に対する健康志向は、2015年度からスタートした「機能性表示食品」制度により、従来以上にその傾向が強まりました。年々拡大する市場規模にも表れており、機能性表示食品の市場規模は3年間で4倍以上にもなっています。また、近年は様々な食品・飲料で糖質オフ商品が販売されています。

こうした状況において昭和産業は“穀物ソリューション・カンパニー”を掲げ、穀物などに含まれる食物繊維を用いて「健康」を求めつつ、穀物の「おいしさ」を技術によって両立させた商品を開発しています。



- ポイント**  
**手法①【健康】** 食物繊維の利用(穀物の力)  
**手法②【おいしさ】** 焙煎・粉碎・配合技術(技術力)

### 機能性表示食品市場の拡大



出所：H・Bフーズマーケティング便覧 2017 No.3

### 「大麦粉のホットケーキミックス」

【家庭用商品 機能性表示食品 消費者庁届出番号 B201】



調理イメージ



- ポイント**  
**【健康】** β-グルカンが豊富な国内産大麦粉使用  
**【おいしさ】** 配合技術で食べやすくおいしい

国内産大麦粉を100%使用したホットケーキミックスです。大麦には、水溶性食物繊維である「大麦β-グルカン」が豊富に含まれており、糖の吸収をおだやかにする機能があることが報告されています。

一方、大麦粉はそのままではパサパサして食べにくく、主食としてはあまり利用されていませんでした。そこを昭和産業の配合技術で食べやすかつおいしいホットケーキミックスにすることができました。ご家庭で簡単に大麦粉の素材本来の香ばしさをお楽しみいただけます。

### 「蒟蒻効果」

【家庭用商品】



調理イメージ



- ポイント**  
**【健康】** 食物繊維として難消化性でん粉+グルコマンナン+小麦ふすまを配合  
**【おいしさ】** パ스타への加工技術と食感向上

「おいしさ」や「満足感」を維持しながらカロリーと糖質を1/4カットし、多くの食物繊維を摂取できます。

難消化性でん粉とこんにゃく芋由来のグルコマンナンや小麦ふすまを配合。グルコマンナンの効果でふくらみやすくなったパスタは、通常の乾麺よりも少ない量で同等のゆで上がり重量になります。

また、原料としてデュラム小麦のセモリナに、小麦ふすまとグルコマンナンをバランス良く配合、さらに乾燥方法を工夫しスパゲッティやマカロニに加工することで、プリプリとした弾力感を維持しつつ、おいしいパスタにすることができました。

### 【開発担当者の声】

#### 新商品がお店に並んだときは、うれしい思いで胸がいっぱいになります

私たち「家庭用グループ」は家庭用商品の開発を、企画から配合の研究、製造方法・品質管理項目の検討、パッケージの決定、製造への落とし込みまで、それぞれの専門部署と連携しながら担っています。特に、健康志向の商品開発は、大麦粉やDHA、乳酸菌など新しい機能性材料を扱うことが多く、安全性のために慎重な評価が必要です。また、健康とおいしさのバランスをとるための試食を何度もくりかえします。これらの業務は、2016年にRD&Eセンターが開設されてから、関連部署と物理的にも心理的にも距離が縮まり、スピードアップが図れています。こうして生まれた商品が発売されたときは、うれしい思いで胸がいっぱいになります。

これからも手作りの楽しさや食の豊かさを大事にしながら、健康に良くおいしいものをお客様にお届けするべく、商品開発に取り組んでいきます。

### 「ローストファインブラン」

【業務用商品 特許出願中 特開 2017-225423】



調理イメージ



- ポイント**  
**【健康】** 食物繊維が豊富な小麦ふすまを使用  
**【おいしさ】** 焙煎・粉碎技術による風味向上

健康につながる小麦ふすま(ブラン)を、昭和産業の加工技術により、おいしさを保ちながらより多くパンや麺などに配合することができ、お客様の多彩な商品開発に貢献しています。

ブランは、食物繊維やミネラル、ビタミンが豊富な食材であり、その市場は拡大しています。しかし、ブランは特有のえぐみと臭みがあり、おいしく利用するのが難しい食材です。

そこで昭和産業は、独自の焙煎・粉碎技術を新たに開発。ブラン本来の風味を保ちながら、えぐみと臭みを抑えたブラン加工品を作ることを可能にしました。



商品開発研究所 家庭用グループ インタビュー参加者

# 昭和産業グループのCSR

17 パートナシップで目標を達成しよう  
 【関連するSDGs目標と取り組み】  
 持続可能な生産と消費に向けた、  
 お客様（法人、一般消費者）に対する情報発信、  
 コミュニケーション

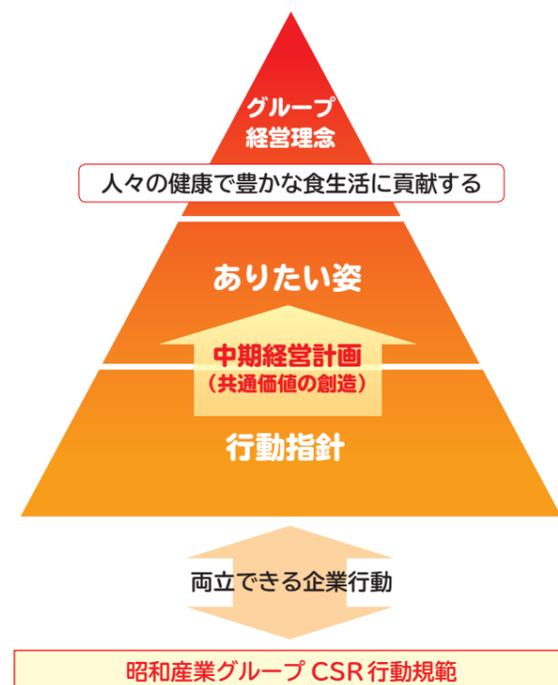
昭和産業のCSR / CSR行動規範  
<https://www.showa-sangyo.co.jp/csr/showasangyo/>

## 昭和産業のCSR

昭和産業グループは、グループ経営理念「人々の健康で豊かな食生活に貢献する」ことを実現するために、「穀物ソリューション・カンパニー」としての特長を生かし、幅広い事業と関連するESGの視点での社会的課題解決の取り組みを推進します。私たちにとってのCSRとは、これらの活動を通じて、全てのステークホルダーからさらなる満足と信頼を得られるよう、持続的かつ発展的な価値創造に努めることです。

そのCSR活動の指針として「昭和産業グループCSR行動規範」を定めています。グループを含む全従業員にこの規範を記載したリーフレットを配布し、常に携行することで浸透を図っています。

### 昭和産業のCSRイメージ図

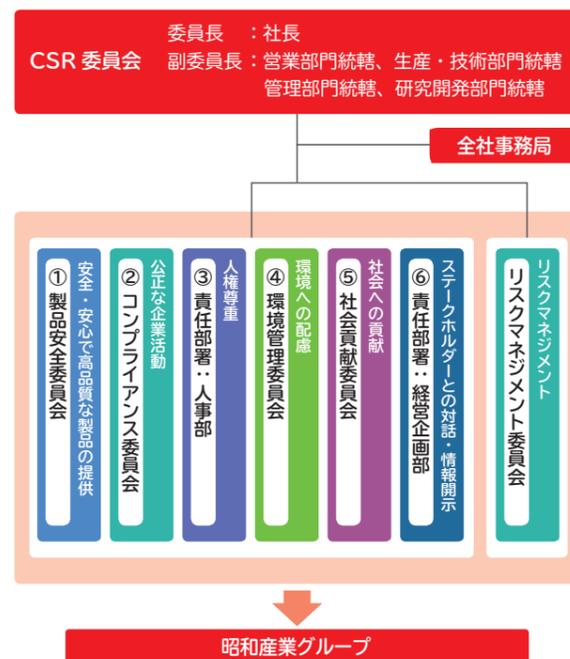


## CSR推進体制

昭和産業では、CSR活動推進のために、社長を委員長とし全ての部署長を委員とするCSR委員会を設置しています。さらにCSR委員会の傘下に、当社が重要と考える6つの社会的課題（「安全・安心で高品質な製品の提供」「公正な企業活動」「人権尊重」「環境への配慮」「社会への貢献」「ステークホルダーとの対話・情報開示」）に加えて、リスクマネジメントなどの個別課題に取り組む専門委員会や責任部署を置いてマネジメントしています。

CSR活動は、昭和産業においては社長の考えをCSR委員である部署長を通じて全従業員と情報共有を図るとともに、グループ会社においてはCSR推進部を通じて情報を共有することで、取り組みを推進しています。

### CSR推進体制図



## ステークホルダー・エンゲージメントの強化

長期ビジョンにおける基本戦略の一環として、お客様から信頼していただけるよう、会社情報の証券取引所への適時開示、報道機関への発表、ホームページへの掲載、決算説明会や株主様向け報告書などを通じて、公平で透明性が高い情報の適時・的確な開示に努めています。

### コーポレートサイトを全面リニューアル

昭和産業のコーポレートサイト（ホームページ）を、より見やすく、使いやすく、親しみやすくするため、デザインやメニュー構成を刷新しました（2018年5月14日）。

## 昭和産業グループ「消費者志向自主宣言」を発表

昭和産業グループは、食に携わる企業やご家庭の皆様の課題に対する解決策をご提案し続けることで、お客様のベストパートナーとなることを目指しています。私たちのこの活動は、消費者庁が提言している消費者志向経営に合致することから、昭和産業グループ「消費者志向自主宣言」を発表しました（2018年5月14日）。

今後も、全てのお客様への安全・安心で高品質な製品の提供はもちろん、ご要望を踏まえた製品やサービスの改善・開発に注力します。

### 主なステークホルダーとエンゲージメントの方法

主なステークホルダー（数値情報は2018年3月31日現在）	ステークホルダーに果たすべき責任	主なアプローチ
<b>お客様</b> 国内外の法人・個人に対し、安全・安心を確保した高品質な商品を提供しています	・安全・安心で高品質な製品の提供 ・品質管理の向上とトレーサビリティの確保 ・製品事故の未然防止 ・危機管理対応規則に則った透明性ある行動	・お客様相談センター ・商談 ・ホームページ ・工場見学・展示会・セミナー ・アンケート
<b>お取引先（仕入れ先・委託先）</b> 原料などを購入するとともに、工場内の作業を委託しています	・協働による品質維持・向上 ・公平かつ誠実な取引 ・労働安全の確保・労働環境の整備	・お取引先様懇談会 ・商談 ・工場調査 ・安全協力会 ・運送会社連絡会
<b>株主・投資家</b> 株主総数は約15,250名。金融機関・その他法人が約68%、個人などが約21%を占めています	・適時・適正かつ公平な企業情報開示と対話 ・継続的・安定的な利益還元 ・企業価値の向上	・株主通信 ・IRサイト ・個別IR活動 ・決算説明会 ・IR工場見学会 ・会社説明会
<b>NPO/NGO</b> 事業特性を生かし、様々な団体への支援・協力を実施しています	・寄付による社会貢献 ・協力・協働を通じた活動支援・協賛	・イベント協賛・参加 ・寄付・支援活動
<b>行政</b> 法規制や行政のガイドラインを遵守し、商品や知見などの提供により、協力しています	・法規制・行政指導などの遵守 ・税金の納付 ・公的課題解決に向けての諸政策への協力 ・災害時のための備蓄	・子ども霞が関見学デー ・災害時備蓄 ・防災訓練
<b>地域社会</b> 支店、工場をはじめとした地域での活動を展開しています	・工場・拠点周辺地域に配慮 ・食育への貢献 ・スポーツを通じた地域貢献 ・地域清掃・イベントへの貢献	・地域清掃活動 ・イベント協賛・参加 ・スポーツ活動への協賛 ・インターンシップ受入
<b>地球環境</b> 重要課題である環境保全への取り組みを環境経営と位置づけ、推進活動を実施しています	・CO <sub>2</sub> 排出量抑制 ・廃棄物削減 ・再生可能エネルギーの利用 ・環境教育・啓発	・環境に配慮した製造設備・商品開発 ・廃棄物削減・リサイクル ・ISO14001：2015の運用
<b>社員</b> 総従業員数は連結：2,139名、単体：1,168名	・人権・多様性の尊重 ・人材育成・評価 ・ワーク・ライフ・バランスの推進 ・職場の安全と健康への配慮	・内部通報制度 ・自己申告制度 ・従業員意識調査 ・社員向け決算説明会

CSR 活動方針と 2017 年度実績

評価基準 …… 達成：○ ほぼ達成：△ 未達成：×

	2017-2019年度の活動方針	2017年度の活動目標	2017年度の実績	評価	2018年度の活動目標
CSR マネジメント	<ul style="list-style-type: none"> <li>● CSR 委員会を定期的に開催し、昭和産業グループ全体に対してCSRの啓発を行います。</li> <li>● 社会環境やリスクの変化に対応し、リスク対策の充実を図ることで、グループリスクマネジメント体制の強化に努めます。</li> </ul>	● 長期ビジョン達成に向けた中期経営計画17-19CSR活動方針の策定	・ 中期経営計画17-19CSR活動方針策定（CSR推進体制改定）	○	<ul style="list-style-type: none"> <li>● ESG視点での重点課題の特定</li> <li>● CSR委員活動宣言（行動計画）の推進</li> <li>● CSR副委員対象の啓発研修実施</li> <li>● リスク対策の強化</li> <li>● 大規模災害訓練の継続実施</li> <li>● 情報セキュリティ対策状況の外部監査</li> </ul>
		● CSR 委員会で各委員が宣言した行動計画の推進	・ CSR 委員に CSR 活動推進研修を実施し、各委員による活動宣言（行動計画）を見直し	○	
		● リスク対策の強化	・ 本社被災を想定した大規模災害訓練の実施 ・ AED 使用方法についての講習会を実施	○	
①安全・安心で高品質な製品の提供	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 「食品安全・品質マネジメントシステム（FSQMS）」の継続的改善を、お客様視点に立って進め、品質保証体制を強化します。</li> <li>● 「フードディフェンスプログラム」の継続的改善により食品安全に対する危害の未然防止体制を強化します。</li> <li>● 「市場やお客様のニーズ」をとらえ、安全で高品質な製品・技術・市場の開発に注力します。</li> <li>● 「FSQMS」におけるグループ連携を強化し、昭和産業グループの信頼性向上・継続的発展に寄与します。</li> </ul>	● 検証活動のレベルアップと効率化によるシステムの継続的改善	・ 鹿島工場、神戸工場、船橋工場で ISO および FSSC22000 認証の継続的維持	○	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 検証活動のレベルアップと効率化によるシステムの継続的改善</li> <li>● 食品素材系グループ会社でのフードディフェンス、フードセーフティ設備工事およびそのシステム運用</li> <li>● 新製品開発、設備化における食品安全品質の向上推進</li> <li>● 昭和産業グループ全体の品質保証体制の強化</li> <li>● 海外生産拠点の品質向上活動の継続</li> </ul>
		● 新製品開発、設備化における食品安全品質の向上推進	・ 新製品開発における食品安全・品質に対するリスクアセスメントの支援	△	
		● 昭和産業グループ全体の品質保証体制の強化	・ 国内グループ会社への教育活動（食品安全品質研修および分析精度管理教育など）	○	
②公正な企業活動	<ul style="list-style-type: none"> <li>● コンプライアンス委員会を定期的に開催し、社内体制の整備、啓発を行います。</li> <li>● 社会環境の変化や法改正に対して、社内におけるルール改正や体制整備を迅速に行います。</li> <li>● 企業の社会的責任の一環として交通安全を推進する施策を実施するとともに、交通安全意識のさらなる醸成に努めます。</li> </ul>	● コンプライアンス推進体制の強化	・ 営業部向けコンプライアンスセミナー実施	△	<ul style="list-style-type: none"> <li>● コンプライアンス推進体制の見直し</li> <li>● 交通事故の削減・撲滅のための施策実施</li> <li>● 交通法規の遵守徹底</li> <li>● 教育・啓蒙活動の継続実施</li> <li>● 衝突被害軽減ブレーキ搭載車の導入（段階的）</li> </ul>
		● 交通事故の削減・撲滅	・ 個人情報保護規程を改定	○	
			・ グループ会社への CSR 巡視調査の実施	○	
③人権尊重	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 社員がイキイキと働く会社を目指し、従業員意識調査を定期的に実施するとともに、改善施策を全社で取り組みます。</li> <li>● 社員教育の仕組みを充実させ、社員の成長を支援します。</li> <li>● 年齢や性別にかかわらず、多様な人材が活躍できる環境の整備に努めます。</li> </ul>	● 急速に進行する少子高齢化を見据え、人事課題に関する今後10年間の長期ビジョンを策定	・ 2025年のビジョン達成に向けアクションプランを策定	○	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 急速に進行する少子高齢化を見据え、長期ビジョン実現のための各種人事施策の計画・実施</li> <li>● 適切な労務管理の徹底（法令遵守）、啓発活動の継続</li> <li>● 生産性向上による働き方の見直し（ワーク・ライフ・バランス）</li> <li>● 仕事と介護の両立</li> <li>● 女性活躍推進</li> <li>● 障がい者雇用の検討</li> <li>● シニア層の活躍機会の検討</li> <li>● 採用方針の見直し</li> <li>● 教育、研修制度の見直し などを継続</li> </ul>
		● 人材開発の推進 ・ 教育・研修制度の見直し ・ 褒賞規程の改定（中央褒賞）	・ 入社から3年間と入社後10年～15年の時期を最重要育成期間として設定。自律社員の育成を目指し、研修制度全体を見直し	○	
		● 多様性の推進 ・ 女性活躍推進 ・ シニア層の活躍推進	・ 女性活躍推進プロジェクトを立ち上げ。取組先進企業への訪問により情報収集を行うことで『昭和産業の「働き方改革」実行に向けた6つの提言』を経営会議に報告	○	
④環境への配慮	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 中長期的な環境目標を定め、目標達成に向けた施策を推進します。</li> <li>● 社員への環境意識向上のため、地球温暖化防止など環境教育を継続的に実施します。</li> </ul>	● 働きやすい環境の整備 ・ 長時間労働の削減 ・ 健康戦略の推進 ・ 介護との両立 ・ 育児などへのワーク・ライフ・バランス施策を継続的に実施	・ 残業の事前申請徹底を含めた労務管理について啓発、教育を実施	○	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 検証活動のレベルアップと効率化によるシステムの継続的改善</li> <li>● ISO14001の認証範囲を拡大（生産技術部を加える）</li> <li>● 昭和産業グループ全体での環境管理活動の推進</li> <li>● グループ会社個別の環境目標の設定</li> <li>● 環境教育の実施とeco検定受験推進</li> </ul>
		● 検証活動のレベルアップと効率化によるシステムの継続的改善	・ 鹿島工場、神戸工場、船橋工場、RD&EサイトでISO14001認証の継続的維持	△	
		● 昭和三業グループ全体での環境管理活動の推進	・ 中長期環境目標の2017年度目標の達成	○	
⑤社会への貢献	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 食生活に関連する社会的課題解決への貢献に向けてNPOなどの団体と連携して取り組みます。</li> <li>● 食品ロス削減に取り組みます。</li> <li>● 食育に貢献する料理教室などの取り組みを継続します。</li> <li>● 地域社会への貢献施策として、地域イベントやNPO・学校などの団体を支援、協賛します。</li> </ul>	● 環境教育の実施とeco検定受験推進	・ ISOサイト内部監査員レベルアップ研修19名、内部監査員レベルアップ研修15名	○	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 食育活動の推進</li> <li>● 食品ロス削減の推進</li> <li>● 出荷期限超過製品を社会福祉施設へ寄贈</li> <li>● 地域社会への協賛、支援、その他社会貢献活動推進</li> </ul>
		● 食育活動の推進	・ 「元気のでる朝食運動」への継続協賛（参加人数1,097名）	○	
		● 食品ロス削減の推進	・ 出荷期限超過製品の社会福祉施設へ寄贈（製品1,050kg）	○	
⑥ステークホルダーとの対話・情報開示	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 地域社会への貢献施策として、地域イベントやNPO・学校などの団体を支援、協賛します。</li> </ul>	● 地域社会への協賛、支援、その他社会貢献活動推進	・ 地域社会への貢献20件	○	<ul style="list-style-type: none"> <li>● ステークホルダーとの関係強化</li> <li>● 企業ブランド戦略の継続実施など</li> <li>● 長期ビジョン・中期経営計画17-19に沿った広報活動の強化</li> </ul>
		● ステークホルダーとの関係強化 ・ 投資家向けIR活動の強化 ・ 企業ブランド戦略の継続実施 ・ 中期経営計画12-16の成果を反映したCSRレポートの発行	・ アナリスト向け決算説明会2回、アナリスト向け鹿島工場見学会、アナリスト向け個別IR18件、個人投資家向け会社説明会3回、大株主向け個別決算説明開催	○	
		● 社内外広報の強化	・ 企業ブランド広告実施（TVCM、日経新聞広告など） ・ 本CSRレポートの発行	○	
			・ ニュースリリース発信45件	○	
			・ 社内報4回発行、社内イントラネット配信156件	○	
			・ 従業員家族向け工場見学会開催 ・ 取引先懇談会開催	○	
			・ 「内定式」天ぷら研修、専門紙記者懇談会開催	○	



## 食品安全・品質マネジメントシステム

## 非リスク3原則

- ① 原材料の調達段階：問題のあるものを持ち込まない
- ② 工場の製造段階：問題のある製品を作らない
- ③ 出荷の段階：問題のある製品を持ち出さない

昭和産業グループは、非リスク3原則を定め、これを確実に実行していくために、「HACCP<sup>\*1</sup>」を柱として「ISO22000<sup>\*2</sup>」「FSSC22000<sup>\*3</sup>」「ISO9001<sup>\*4</sup>」「AIB フードセーフティシステム<sup>\*5</sup>」を包括した当社独自の「食品安全・品質マネジメントシステム」を運用しています。

※1～5の用語説明は29ページの「データ集」に記載しています。

## 製品回収など緊急時の体制強化

万が一にも製品の安全・安心の懸念が生じた場合に備えて、製品回収の仕組み・手順を構築しています。健康被害や法令違反が疑われる場合は、緊急製品安全委員会で対応を検討の上で、製品の回収を決定し、社告やホームページなどで開示する体制をとっています。

## お客様相談センターの活動

お客様相談センターは、お客様から頂く電話やメールでのお問い合わせに回答するだけでなく、その貴重なお客様の声を商品に反映するよう、関係部署と連携した活動を行うのも大切な役割です。2017年度の主な改善事例をご紹介します。

## ① 油PETボトルのふたを改善

## お客様の声

使用中にふたが閉まりやすい。  
中味は良いのに…残念。  
何とか改善できませんか？



ふたの設計を見直し、  
使いやすさを改善しました。

## ② リン、カリウム含有量をHPで公開

## お客様の声

腎臓に障害があるので、  
商品のリンとカリウム含有量を  
教えてほしい！



必要性を社内に説明し、  
ホームページにて数値を公開しました。

成分	含有量
リン	80mg
カリウム	120mg

※参考例として分析

## 非リスク3原則

## 原則1：問題のあるものを持ち込まない

原材料の調達に際しては、現地訪問および生産者とのコミュニケーションを通じて産地における生産管理状況に関する必要な情報を入手しています。また、品目ごとに事前のサンプル検査、受け入れ時の検査や年間計画に基づく定期的な検査を設定し、実施することで納入される原材料の安定性および品質のチェックを行っています。

加工された原材料(副原料)については、品質保証書を精査して安全・品質の確認を行うとともに、製造工場の現場調査を通して、当社の安全の考え方を理解した上で、改善に取り組んでいただいています。容器包装資材も同様の方針で確認しています。これらを継続的に行い、さらなる安全・安心および品質の向上に努めています。

## 工場調査の実績(年間計画外での実施件数を含む)

	2015	2016	2017
副原料	54件	66件	67件
容器・包装資材	11件	15件	16件
委託先	17件	12件	13件

## 非リスク3原則

## 原則2：問題のある製品を作らない

## ■ フードディフェンス(食品防御)への取り組み

人による意図的な食品事故を防ぐ取り組みとして、フードディフェンスプログラムを構築しています。2017年度は、未導入だったグループ会社において、工場建屋への従業員以外のアクセスを制限するために入口の最少化や個人認証システムの導入を行いました。また工場内部には、画像データを記録・保管できるカメラシステムを導入しています。

## ■ 新商品開発のリスクアセスメント

原材料の選定・商品設計・開発に際して、各段階でのハザード分析を行い、設計開発に起因するクレーム・製造不良の防止と品質向上を図っています。

生産工程の設計(工業化)に際しては、あらかじめ危害リスクを想定して、それらを排除した機器・設備・運用方法を選定し、トラブルを防止しています。

## ■ 現場重視の監査活動

「食品安全・品質マネジメントシステム」による昭和産業およびグループ会社の監査を、原則として毎年行います。現場を回り、工程管理や記録の状況、設計通り安全で高品質の製品が安定して製造されているかチェックします。問題点が見つかった場合は、原因を突き止め、仕組みを改善します。2017年度は国内17拠点、海外2拠点で実施しました。

## ■ 海外関連会社への衛生・品質向上の取り組み

食品製造を行っている海外関連会社に対して、生産・開発・品質保証のプロジェクトメンバーにより、衛生・



品質管理技術指導

品質に関する現地での技術指導や国内での研修を行っています。

## 非リスク3原則

## 原則3：問題のある製品を持ち出さない

## ■ 出荷・物流での取り組み

昭和産業グループの製品のうち、有姿品<sup>\*1</sup>についてはお客様への直送のほか、流通卸会社の倉庫での保管後に出荷され、バラ品<sup>\*2</sup>はローリー車などにより納入されます。自社および流通卸会社に対し、定期的に食品安全・品質面での管理状況を調査・指導することにより、サプライチェーン全体での品質保証の協体制向上に努めています。

バラ品の納入には、異物混入防止対策を施したローリー車を導入し、工場からお客様にお届けするまでの間は、タンクなどに施錠または封印を行っています。さらに積み下ろし作業時に専用作業着を着用するなど、異物混入などの事故防止徹底を図っています。

※1有姿品：袋やボトルなどに詰めた製品

※2バラ品：有姿品以外のローリー車やコンテナなど大容量で供給する製品

## ■ グループ会社との品質管理に関する技術研修会

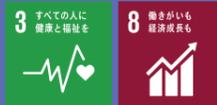
安全な製品をお客様に届けるため、食品製造を行っているグループ会社の品質管理担当者が集まる研修会を開催しています。2017年度は、14社26名の参加者全員で東葛食品(株)の製造・品質管理の現場を視察し、改善提案に向けての各社の課題などの情報交換を行いました。

また、製粉関連のグループ会社の品質管理担当者を集めて、小麦粉の品質検査などの研修も実施しました。その他のグループ会社についても、品質管理担当者により分析検査精度の確認および力量評価を行い、技術の向上を図っています。さらに、官能評価担当者には味覚嗅覚試験を実施し、合格者を資格認定しています。



品質管理研修会

# 従業員との関わり



【関連する SDGs 目標と取り組み】  
安全・安心な原材料の使用と製品の提供/  
化学物質のリスクアセスメントによる職場の労働安全確保/  
女性の活躍推進/再雇用制度/障がい者雇用/  
復職支援短時間勤務制度 等



従業員への取り組み/人権に関する取り組み基本方針  
<https://www.showa-sangyo.co.jp/csr/employee/>

従業員データ  
→ P31

## 人材に対する基本方針

昭和産業の人事制度においては「自律型人材の育成」を最重要と考えています。「複線型人事制度」に基づき、従業員が、自身のキャリアを考え進む道を選択するとともに、「専門スキルの向上と多能化の両立」「従業員の自律を尊重した適材適所の配置」「貢献度に応じた処遇の実現」を目指した人事制度により、個々の能力の向上を図っています。また、多様な研修制度・教育プログラムを設けることで従業員の質的向上に努めています。

## 人材開発

「目標管理制度」により、期首に経営方針や部門目標に沿った個人目標を設定し、従業員それぞれが目標の達成に向けた取り組みを進めています。上司は適宜、進捗確認やアドバイスをを行い、従業員のやる気を引き出しています。また「自己申告制度」は、経験してきた仕事、自身の強み、弱みについて、従業員一人ひとりが自己申告書を作成し、その内容について上司と面談を行い、様々

な角度から自身のキャリア（ありたい姿、やりたい仕事）を振り返る機会としています。他部署への異動に本制度を活用することもでき、希望者には人事部が面談を実施します。

## 研修制度

昭和産業の研修制度の中心は階層別研修です。階層別研修は「自律心の醸成」「各職務階層に必要な知識を習得すること」「考え抜く習慣を身につけること」「新たな気付きを得ること」を目的に実施しています。それぞれの研修は、人事制度や他のキャリア開発諸施策と相互に連動しており、自身および部下のキャリア開発を行う上での道しるべの役割を果たしています。なお、2017年度より入社から3年間と入社後10～15年の時期を「最重要育成期間」と位置づけ、階層別研修を全面的に改訂しました。

また、階層別研修とは別に、経営方針の理解や昭和産業の社員として必要な知識の習得を目的に、全社員教育として「昭和塾」を毎年実施しています。

□ 昭和産業 教育体系図 ※海外研修、昭和塾は除く

目的		次世代リーダーの育成		キャリアメイクのサポート		全社員のレベルアップ		
目的	研修	階層別研修		指名研修	指定通信教育	年代別研修	自己啓発	
		研修	内容					
管理職	マネジメント力			ビジネススクール(経営)		50歳 キャリア & 後任育成	各種 通信 教育	
				ビジネススクール(マネジメント)	【新任管理職】 労務管理			
選抜期	革新力	後期リーダー研修	組織マネジメント	人事評価研修	【新任リーダー】 業務革新	40歳 キャリア & スキルの棚卸し		各種 通信 教育
		新任リーダー研修	問題解決と提案スキル			初級管理者の役割		
習熟期	価値創造力 課題発見力		リーダーシップ、論理思考	連動通信教育 優秀修了者		30歳 キャリア & 中核人材		
			PDCAの回し方、問題発見/解決				ビジネススクール (単科コース)	
開発期	ビジネス 基本スキル	3年目研修	3年間の軌跡、プレゼン		【1-3年目】 【新任】1】 ①書く力 ②考える力 ③問題発見/解決		各種 通信 教育	
		2年目研修	自己分析、生産性向上					
		新入社員研修②	鹿島工場実習					
	新入社員研修①	基本スキル、マナー、会社の基礎知識						

## 多様性の推進

### 障がい者<sup>※</sup>雇用

昭和産業では、事業所ごとに障がい者の雇用に積極的に取り組んでいます。障がい者の皆さんが働きがいを持って日々の仕事ができるよう、一人ひとりに適した職場へ配属しており、2018年3月末現在で21名が活躍しています。

※昭和産業では2017年度より表記方法を「障がい者」に統一

### 再雇用制度

昭和産業では、定年退職者の豊かな業務経験を生かすとともに、60歳以上の従業員に雇用の場を提供することを目的とした再雇用制度を導入しています。2017年度中の新たな再雇用者は9名、2018年3月末現在の再雇用者数は65名です。

## 働きやすい環境の整備(復職の支援)

### 復職支援短時間勤務制度

昭和産業は、最長3年間の病気休職制度を用意し、加えて病気休職から復帰する従業員に対し、円滑な復職を支援することを目的として、半日の短時間勤務を最長で3カ月間認めています。朝の通勤ラッシュを回避するために午前の勤務時間を短縮する、あるいは夕方に通院するために午後の勤務時間を短縮するなど、個々の都合に応じて短縮する時間を30分単位で設定できます。

また、法定基準を上回る介護休職制度も導入しています。

### カムバック制度

昭和産業では、2008年10月より、結婚・出産・育児・介護・配偶者の転勤などを理由に退職した従業員を再雇用する「カムバック制度」を導入しています。過去に1年以上在籍勤務した従業員が対象となり、2018年3月末までに2名がこの制度を利用してカムバックしています。

## 職場の安全と健康

### メンタルヘルス

昭和産業は、メンタルヘルスに関する情報を積極的に社内イントラネットや社内報で紹介するとともに、従業員がどのようなことでも匿名で相談できるように、社外に相談窓口を設置しています。2016年度からはストレスチェック制度を導入し、従業員一人ひとりのストレスへの気付きを促すとともに、組織分析を実施して働きやすい職場環境づくりを進めています。

### 労働安全衛生

業務災害の防止に向けて、ヒヤリハット分析や危険予知訓練、安全巡視、5S活動など、日常的に様々な取り組みを行っています。さらに、2014年度より各工場では「OSHMS<sup>※</sup>(労働安全衛生マネジメントシステム)」を活用し、安全衛生水準のさらなる向上を目指しています。

また、現場で活躍する従業員を対象にした「安全体感研修」を開始しました。危険に対する安全感受度の低下、安全教育のマンネリ化を払拭するために、「高所危険体感」「回転体危険体感」「電気危険体感」などの危険体感を通じて安全意識の向上を図る研修です。2017年度は、鹿島工場約100名が受講しました。

※「OSHMS」とは、事業者が労働者の協力のもとにPDCAサイクルの一連の過程を定めて、継続的な安全衛生管理を自主的に進めることにより、労働災害の防止と労働者の健康増進をするとともに、さらに進んで快適な職場環境を形成し、事業場の安全衛生水準の向上を図ることを目的とした安全衛生管理の仕組みです。



安全体感研修(巻きこまれ体感)

# 社会との関わり(社会貢献)



【関連するSDGs目標と取り組み】  
 国連WFP「レッドカップキャンペーン」に参加/  
 「元気のでる朝食運動」に協賛/  
 持続可能な食料生産システムの構築・運用/  
 食品ロスの削減

社会への取り組み/社会貢献基本方針  
<https://www.showa-sangyo.co.jp/csr/social/>

昭和産業グループは、企業市民としての役割を自覚し、企業としての社会的な責任を果たすことを通じて、健全で豊かな社会の発展に寄与するように努めています。また、従業員各人の社会貢献活動を積極的にサポートしています。

## 食品ロス削減の取り組み

出荷期限を過ぎた製品は賞味期限内であっても処分していましたが、2015年より一般社団法人中央ライフ・サポートセンター\*を通じて社会福祉施設で活用していただく取り組みを推進しています。2017年度は約1,050kgの製品を寄贈しました。

当社は、こうしたフードバンク機関やサプライチェーンでの連携を強化することで、食品ロス削減に取り組んでいます。

\* 約400の社会福祉施設および食品・流通企業とネットワークを構築し、サプライチェーンから発生する食品ロスにつながる製品を施設に寄贈する仕組みを運営するフードバンク。食品企業と福祉施設双方の本業を通じた社会貢献の支援を目的としています。

## 災害支援活動・寄付活動

### 従業員からの募金による被災地支援

国内外で発生する大規模災害の被災地を支援するため、昭和産業グループの従業員が一口500円から寄付できるワンコイン募金制度を制定しています。災害規模に応じ、会社からの寄付を合わせたマッチングギフトも行っています。(平成30年7月豪雨での被災地支援：昭和産業グループとして、社会福祉法人中央募金会などを通じ500万円を寄付しました。従業員の募金参加者336名)

### 震災復興「いわきスポーツアスレチックアカデミー」への協力

昭和産業は、福島県いわき市に拠点を置く、株式会社いわきスポーツクラブとパートナーシップ契約を締結しました。同クラブの「復興から成長へ」「スポーツを通じて社会を豊かにする」という理念に共感し、地域の子どもたち向けに展開するいわきスポーツアスレチックアカ

デミーに対して、食育分野での協賛、サポートを実施していきます。

### 国連WFP協賛

昭和産業グループは、国連WFP協会の評議員として、飢餓と貧困の撲滅を使命に活動する国連WFPを支援しています。毎年、エッセイコンテスト、レッドカップキャンペーンを通じて、飢餓や貧困に苦しむ子どもたちに給食を届ける活動を続けています。

2017年度は、「おなかいっぱい幸せごはん」をテーマに、19,075通の作品が寄せられ、マッチング寄付でおよそ2万名の子どもたちに栄養価の高い給食を届けることができました。



## 地域との連携

昭和産業グループは、全国各地の事業所、グループ会社において、従業員による周辺地域の清掃活動を定期的に行っています。また、地域イベントへの協賛・参加などを通して、地域の活性化に貢献しています。

周辺地域の清掃活動例



## グループ企業の地域貢献活動

### 木田製粉株式会社(北海道)

#### 「グループ広報大賞を受賞」

木田製粉は、地元の北海道産小麦を原料に使用した「Hokkaido pancake」の拡販の取り組みや「PTA講習会」を中心とした地域貢献活動の紹介が評価され、「昭和産業グループ広報大賞」を受賞しました。

PTA講習会は、地域の幼稚園や小学校のPTAの皆さんを対象とした、手打ちうどんやパンなどの小麦粉を使った料理教室です。毎年6回程度開催しており、2017年度は延べ90名に参加いただきました。

また、2017年は、地元高校のキャリアプロジェクト活動に協力しました。高校生が地元企業を訪問し、社会人となった先輩に仕事の内容を取材するものです。入社間もない従業員数名が、緊張の面持ちで取材にお答えしました。

これからも、地域清掃活動をはじめ様々な機会を通して、地域の皆様に愛していただけるとな会社を目指していきます。(木田製粉 CSR担当より)



木田製粉の皆さん(中心は永瀬社長)



PTA講習会の様子

### 株式会社菜花堂(岩手県)

#### 「一関の“もち食文化”に貢献(一関高専との共同研究)」

菜花堂では、一関工業高等専門学校の戸谷先生や学生を中心とするメンバーと共同研究\*を行いました。時間がたつと固くなるもちの『老化しにくく新たな食感と機能を有する「機能性もち」の開発と商品化』を目的としています。

研究は、「もちの老化防止」のために分子の鎖長や構造が異なる糖質の効果、官能評価のほかに様々な分析機器を用いて系統的に評価したもので、「新たな食感と機能性を有する食品の開発」と題して発表しています。菜花堂からは、昭和産業の様々な糖質を提供し、もちの作成や官能評価を中心に協力しました。

菜花堂では、これからも地元伝統のもちの食感老化防止への「おいしい答え」を追求し、一関のもち食文化の向上に貢献していきたいと考えています。(菜花堂 CSR担当より)

\* 岩手県の「ものづくり産業技術開発推進事業」に基づく共同研究です。



一関の伝統料理「もち御膳」

#### 「もちの老化防止」に関する分析結果の一例(一関工業高等専門学校の戸谷先生より提供)

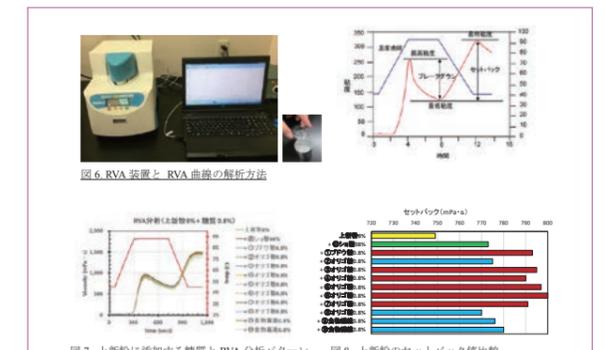


図6. RVA装置とRVA曲線の解析方法

図7. 上新粉に添加する糖質とRVA分析パターン

図8. 上新粉のセットバック値比較

## 「元気のでる朝食運動」に協賛



昭和産業は、一般社団法人栄養改善普及会主催「元気のでる朝食運動<sup>※</sup>」に2008年より協賛しています。朝食の大切さを見直し、簡単でおいしい、栄養バランスを考えたメニューづくりの普及を目指す活動です。朝食の欠食率は、残念ながらここ10年横ばいで、減る傾向はみられません。食品メーカーの責任として、様々な機会ですぐに啓発活動を続けていきたいと考えています。

## ■ 料理初心者も楽しく調理実習

料理初心者にもやさしい、簡単レシピの調理実習があります。自分で作った料理を、皆と一緒に試食するのも大きな楽しみです。昭和産業は、本活動を通じて、一人暮らしの若者などに、自分で料理する楽しさも伝えていきたいと考えています。

## ■ 「ホットケーキミックス」は魔法の粉！！

ホットケーキミックスは、使い方次第でおやつだけでなく主食にもなります。例えば、ミックス粉に豆腐や卵などを混ぜた生地を電子レンジ加熱で焼き上げ、ハムやレタスなどを挟んでサンドイッチ風に。栄養バランスが良く、朝食にピッタリです。

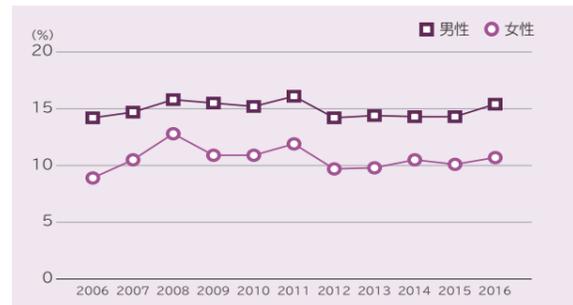
(レシピの詳細は昭和産業HP おすすめレシピ「レンジパンケーキサンド」へ)



## ※「元気のでる朝食運動」活動概要

- ・実施内容：朝食はなぜ大切かの説明、調理実習、「おはようメニュー」(テキスト)の配布など
- ・参加者：一般消費者、小学生の親子、中学生、高校生、大学生など
- ・開催回数：30～40回/年
- ・参加人数：30～40名/回 (約1,200名/年)

## ■ 朝食欠食率の推移



平成28年度「国民健康・栄養調査」結果の概要(厚生労働省)より

## 昭和産業は、食に関わる企業として、様々な機会を利用して食育活動を行っています。

## ■ 鹿島工場 親子工場見学会 (7/26、8/23)

鹿島工場において、地域のお取引先様との協力のもと、地域に向けた食育活動の一環として、親子工場見学会を開催しています。2017年度は地域の小学生親子が67名参加しました。小麦が船で運ばれ、工場内で小麦粉になっていくまでの工程を見学したほか、講義、クイズなどを通じて食に関する知識を深めました。親子でお好み焼作りにも挑戦し、料理の楽しさを体験しました。

## 鹿島アントラーズと昭和産業



©KASHIMA ANTLERS

Jリーグが発足した初年度からオフィシャルスポンサーとして鹿島アントラーズを応援しています。

鹿島アントラーズのホームタウンは、鹿嶋市、神栖市、潮来市、銚田市、行方市の5市です。昭和産業は、鹿島臨海工業地帯ができて間もない1974年に鹿島工場を竣工して以来、鹿嶋・神栖・潮来地区の発展とともに歩んできました。

今後も、昭和産業は鹿島アントラーズや地元と共に、地域社会の発展に貢献していきます。

## ■ 「SHOWAエキサイトマッチ」の開催(9/23)

冠試合として「SHOWAエキサイトマッチ」を開催し、昭和産業の商品を販売するチャリティーイベントなどを実施しています。オリジナルタオルのプレゼントのほか、従業員や家族を招待し、応援を盛り上げました。

## ■ 「鹿島アントラーズふれあいサッカー教室」の開催(11/12)

毎年、茨城県内の企業と共同で「鹿島アントラーズふれあいサッカー教室」を開催しています。2017年度は、40組の小学生親子が参加し、鹿島アントラーズのコーチや選手と一緒にサッカーを楽しんでいただき、教室終了後に選手からのプレゼント抽選会や記念写真撮影会を行いました。



## ■ 「こども霞が関見学デー」出展

霞が関の官庁による「こども霞が関見学デー」に出展し、穀物から食品ができるまでの展示と食品ロスに関する講義を行いました。

## ■ 鹿島アントラーズ食育キャラバン事業への協賛(9～12月)

鹿島アントラーズのホームタウンである神栖市の小学校15校で開催された食育キャラバン事業に協賛しました。



## 担当者からの声

地域貢献やPR活動の一環として、Jリーグ発足当初から応援しています。常勝軍団の鹿島アントラーズの知名度を生かし、昭和産業の魅力を伝えていけるよう、さらには鹿島アントラーズがタイトルをとれるように、一丸となって応援していきたいと考えています。

©KASHIMA ANTLERS



# 環境への配慮

7 エネルギーをいかに有効に活用するか  
12 つくる責任  
13 気候変動に具体的な対策を

【関連するSDGs目標と取り組み】  
再生可能エネルギーの導入/省エネ・省資源/  
廃棄物削減/食品ロスの削減/  
CO<sub>2</sub>排出削減/ロジスティクスの効率化/  
フロン排出抑制法対応

環境への取り組み/環境基本方針  
<https://www.showa-sangyo.co.jp/csr/environment/>

環境データ  
→ P30

## 環境基本方針・環境マネジメントシステム

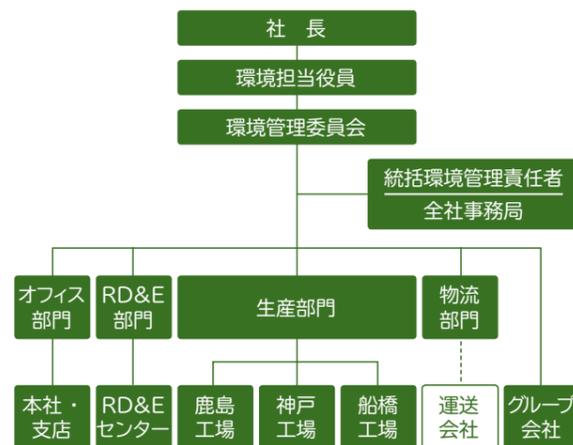
昭和産業グループは、「CSR委員会」の傘下組織である「環境管理委員会」において、環境対策に関する重要な課題に対し方針を審議・決定しています。この委員会では、「環境基本方針」に基づき、毎年の環境目標、中長期目標、施策などの決定、環境関連データの管理を行うとともに、環境マネジメントシステムが適切に運用されているかを確認しています。グループ全体での活動推進のため、生産系グループ会社だけでなく、非生産系のグループ会社も参加しています。

昭和産業では、環境負荷の高い生産部門3工場<sup>※1</sup>、生産およびライフサイクルにおいて環境負荷低減につながる研究開発部門でISO14001<sup>※2</sup>認証を取得し、バリューチェーンにおける環境負荷低減を図っています。

※1 鹿島工場、神戸工場、船橋工場

※2 環境マネジメントシステムの国際規格

### 昭和産業グループ環境管理体制図



## 環境教育・啓発

ISO14001において、環境監査員の力量を継続的に向上させるため、全社内監査員およびサイト内部監査員のスキルのレベルアップ研修ならびに養成研修を実施しています。また、従業員への環境への啓発を目的に、eco検定(環境社会検定試験)の受験を推進しています。

### 環境教育・啓発活動の実績

	2015	2016	2017
内部監査員レベルアップ研修	21名	20名	15名
サイト内部監査員レベルアップ研修	40名	99名	19名
ISO初級者研修	24名	25名	37名
eco検定合格者数	7名	11名	25名
eco検定合格者数累計	122名	133名	158名

## バリューチェーンにおける取り組み

昭和産業の油脂分野では、バリューチェーンへの取り組みとして、フライ製品を販売するお客様などに、その使用状況に応じたフライ油の最適な使用方法をご提案することで、フライ油の廃油量削減に協力しています。

その活動のなかで得たノウハウを生かし、加熱による劣化を抑え、より長くお使いいただけるフライ油として「キャノーラ NEO」や「フライフォーカス」を開発しました。これにより、お客様ごとに最適なフライ油と使用方法を組み合わせることが可能になり、さらなる廃油量削減につながっています。



「キャノーラ NEO」(左)「フライフォーカス」(右)

## 昭和産業グループの中長期環境目標

昭和産業グループは、2020年度に向けた中長期環境目標を設定し、目標達成に向けた取り組みを進めています。2017年度の実績は、以下の通りです。各テーマで目標を達成しました。今後も、さらなる削減に向けた取り組みを進めていきます。

### 中長期目標と達成状況

テーマ	中長期目標	2017年度目標(基準進捗)	2017年度実績	評価
気候変動対策	昭和産業グループは、CO <sub>2</sub> 排出量原単位を2020年度には、2009年度比15%削減する	-10.5%	-18.6% <sup>a)</sup>	○
	昭和産業生産部門においては、CO <sub>2</sub> 排出量原単位を2020年度には、2009年度比20%削減する	-14.0%	-18.7% <sup>b)</sup>	○
資源循環	廃棄物の再資源化率95%以上を維持	95%	97.4%	○
	食品廃棄物の再生利用の実施率95%以上を維持	95%	99.9%	○

※昭和産業グループ：昭和産業および主要生産系子会社である、敷島スターチ株式会社、奥本製粉株式会社、九州昭和産業株式会社、株式会社スウィングパーカーリーの5社を算出対象としています。(連結対象全体のCO<sub>2</sub>排出量に対し、算出対象5社でおおむね95%をカバーしています：2018年3月末時点)

※集計はスコープ1、スコープ2の範囲です。

※CO<sub>2</sub>排出量原単位の算出には、電力の排出係数を2009年度係数に固定して算出しています。各年度の排出係数使用での2017年度実績は、a)が-10.3%、b)が-11.1%となります。

## 気候変動対策

昭和産業グループは、エネルギーロス・工程不具合削減などの対策のほか、使用エネルギーの見直しに取り組んでいます。

### ガスエンジン発電の導入

鹿島工場では、2017年12月に新たな発電設備となる都市ガスエンジンコージェネレーション設備が竣工しました。世界最高水準の発電効率49.5%を達成し、工場内で必要とされる電気と熱(蒸気や温水)を供給します。CO<sub>2</sub>排出量の大幅削減(約4,100t-CO<sub>2</sub>/年)を見込むとともに、BCPの一環としても位置づけています。



都市ガスエンジンコージェネレーション設備

### ロジスティクスの効率化

納品場所(消費地域)により近い工場での製造に向けた取り組みを進めています。2017年度は、約2,500tの製品の製造工場を移管しました。輸送距離短縮によるCO<sub>2</sub>排出量削減の効果は、約200t-CO<sub>2</sub>となっています。

## 廃棄物削減

昭和産業グループは、廃棄物の再資源化率95%以上を目標に掲げて分別再利用を推進し、分別区分ごとの再資源化・売却方法の検討による再資源化率の向上と総廃棄物量削減、最終埋立処分量「ゼロ」を目指した取り組みを行っています。2017年度の再資源化率は97.4%となりました。

食品循環資源<sup>\*</sup>を含む食品廃棄物のリサイクル率は99.9%以上を維持しています。

※食品循環資源：小麦、大豆、菜種、トウモロコシから小麦粉製品、植物油、糖質製品を製造する際に発生する副産物は、主に飼料、肥料、工業用原料として活用しています。

## 基本方針

昭和産業は、グループ経営理念に基づき、株主をはじめ、お客様、社会など全てのステークホルダーからの信頼を高めるとともに、迅速かつ果敢な意思決定を行い、持続的な成長と中長期的な企業価値向上の実現を目指します。そのための具体的指針として、「昭和産業コーポレートガバナンス・ガイドライン」を制定し、経営の最重要課題の一つであるとの認識のもと、コーポレートガバナンスの実効性の拡充に取り組んでいきます。

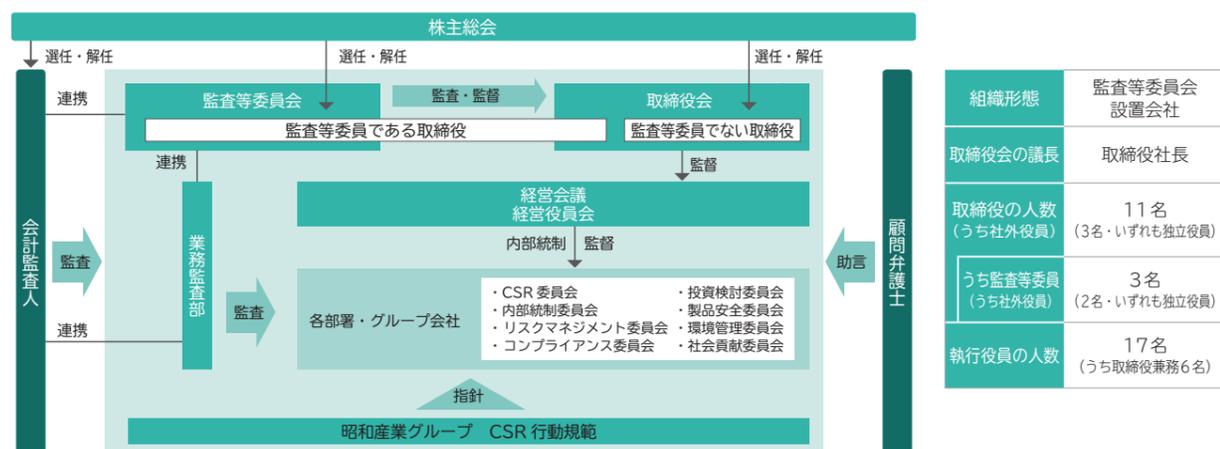
## ガバナンス体制の強化

昭和産業は、2017年6月に「監査等委員会設置会社」に移行しました。これにより、監査等委員が取締役会の構成員となり、取締役会の監督機能を強化することで、さらに一層のコーポレートガバナンスの充実を図ります。

## ■ 役員の報酬等

役員報酬制度の客観性・透明性を確保するため、2017年4月1日付で「報酬ポリシー」を制定しました。同時に社外取締役のみから構成される報酬諮問委員会を設置し、同委員会からの諮問を経た上で、取締役会にて役員報酬を決定しています。

## □ コーポレートガバナンス体制図 (2018年6月末時点)



## 内部統制

「内部統制システム構築に関する基本方針」に基づく内部統制システムを運用し、リスクマネジメント体制の整備、コンプライアンスの徹底、業務プロセスの明確化による透明性や効率性の向上などに取り組んでいます。内部統制監査開始の2008年度以降2017年度まで、外部の監査法人より財務報告に関わる内部統制は有効と判断されています。

## 監査体制

昭和産業グループの内部監査に関しては、業務監査部を設置し、昭和産業グループの企業活動が、経営目標達成のために、適法適正かつ効率的に行われるよう、業務の遂行状況および内部統制の状況について監査し、改善の勧告、改善案の提示、改善状況の確認を行っています。

監査等委員による監査等については、監査等委員会が定めた監査等の方針、役割分担等に従って行っています。常勤の監査等委員である取締役は、経営会議その他重要な会議に出席するほか、業務執行取締役等から業務の状況等の報告を聴取するなどして、業務執行取締役の業務の監視が十分にできる体制となっています。また、監査等委員会および内部監査部門は、当社の内部統制の整備を主導する内部統制委員会より定期的に報告を受け、監査等を行っています。

## 社外取締役(監査等委員)からのメッセージ

就任後、約2年間で主要3工場のほか、多くのグループ会社を訪問し、経営役員会にも出席してきました。昭和産業の特徴、現場の状況を直に知り、「誠実」「真面目」な姿勢を感じています。その上で、社外取締役として、昭和産業の行動に世の中の常識と異なる点があれば、それに気付き、指摘することが大きな役割だと考えています。ガバナンスの要は、現場が正しい行動をとろうとする意識をいかに高め、維持するか、にあります。経営の姿勢として、昭和産業グループ全体の意思疎通を強化し、その姿勢を現場に伝えることが重要です。監査等委員の立場として、ガバナンスの意識が末端まで浸透しているかを見ていきます。

また、昭和産業の経営の強みは、複数の事業部門があり安定していること、80年以上の歴史のなかで、継続性を重視し長期的な目で判断する社風を維持していることだと思えます。今後も、この社風を大切にしつつ、成長し続けることを期待します。



社外取締役(監査等委員)  
**栗原 和保**



社外取締役(監査等委員)  
**三輪 隆司**

昭和産業の経営を一言で表現するならば、それは「健全経営」です。経営判断においては、リスクを十分に認識した上で、そのリスクをコントロールできるという判断のもとで各種施策決定が行われています。また、大いに評価できる経営姿勢は、ステークホルダーやマーケットからの要請に真摯に応えようとする姿勢、コーポレートガバナンス・コードで要請されている事柄に対して誠実に取り組みを進めている姿勢です。常により良いガバナンス体制を構築しようとする経営の意思が明確です。

そうした経営における社外取締役としての役割は、社内とは異なる視点でリスクに対するアンテナを高くしつつ、健全経営の維持・向上に貢献することと考えています。さらに、盤石なガバナンス体制は経営の核となるという観点から、監査等委員会の機能充実や人材育成への提案などにも尽力いたします。

## IR活動の強化

昭和産業は、株主・投資家の皆様に対し、公正かつ透明性の高い情報開示に努めるとともに、適切かつ積極的なコミュニケーションに努めています。

情報開示では、ホームページ上にIR情報やニュースリリースなどを開示し、透明性の向上に努めています。また、機関投資家や証券アナリスト向けに、決算説明会(5月、11月)、工場見学会(4月)、個別の取材対応などを行いました。さらに、個人投資家向けの会社説明会(6月、12月、2月)も開催しました。

## □ IR活動実績

活動	実績	内容
アナリスト向け決算説明会	2回	機関投資家や証券アナリスト向けに5、11月(中間、本決算時)に決算や取り組み内容などを説明
アナリスト向け工場見学会	1回	機関投資家や証券アナリスト向けに4月に鹿島工場の見学会を開催
アナリスト向け個別IR	18件	機関投資家や証券アナリスト向けに都度、事業内容や決算、取り組み内容などを説明
個人投資家向け会社説明会	3回	個人投資家向けに6、12、2月に事業内容やビジネスモデル、株主還元などを説明
大株主向け個別決算説明	—	大株主に対し個別に5、11月(中間、本決算時)に決算や取り組み内容などを説明

# リスクマネジメント

## リスクマネジメント体制と活動

昭和産業グループでは、企業経営に対する重大なリスクに適切かつ迅速に対応するために、リスクマネジメント委員会を設置しています。委員会はグループ全体のリスクを総括的に管理しています。また、緊急事態が発生した際の対応については、その連絡体制・行動指針などを規程によって明確にしています。

### 防災への取り組み

昭和産業では、従業員の防災意識向上と備蓄品の確認などを目的に、毎年9月1日の「防災の日」に全従業員参加の大規模災害訓練を実施しています。

2017年度の訓練は二部構成とし、第一部では、関東地方で震度6強の地震が発生、東京の本社が被災した想定で、大阪支店に緊急対策本部を設置し、衛星電話やタブレット端末を使用して本社などと連絡を取り合う訓練を行いました。

第二部は、外部講師によるAED講習会を実施し、万一の際にAEDが使えるよう実地訓練を行いました。



AED講習会の様子

### 経営に重大な影響を及ぼす可能性があるリスク

#### ● 穀物原料調達

小麦、大豆、トウモロコシなどの穀物原料の調達は、穀物相場、為替相場、輸送運賃などの変動、気候変動の影響を受けます。

#### ● 製品安全

製品の安全には設備投資や組織整備などの体制を構築していますが、食に関する社会的事件や病気の発生などの影響を受ける可能性があります。

#### ● 大規模災害

耐震補強や訓練など災害対策を講じていますが、想定以上の大規模災害が発生した場合に被害を受ける可能性があります。

### ● 事業継続計画（BCP）への取り組み

自然災害などの緊急事態を想定したリスクマネジメント体制を構築するとともに、BCPマニュアルを策定し、防災および事業継続対策に取り組んでいます。BCPマニュアルでは、BCP運営体制、非常時の体制、災害備蓄、ITシステムのバックアップ対策、大規模地震・パンデミック対策などについて定めています。

### ● 情報セキュリティ対策

設備的対策、技術的対策、人とルールによる対策を講じ、情報漏洩や改ざん、システム停止などの脅威から守っています。新人研修のほか、グループ会社も含めて「標的型メール攻撃訓練」を実施しています。これらの対策は、毎年「情報セキュリティ委員会」で継続的に見直しています。

### ● 原料の安定調達の取り組み

天候の影響による収穫量の変動などの原料調達リスクに対応できるよう、複数の国・地域から調達するトライアルを進めています。新規調達先については、原料の安全性や品質を確保するため、現地訪問や生産者とのコミュニケーションを通じて産地における生産管理状況に関する必要な情報を入手しています。

また、2018年7月にRSPO（持続可能なパーム油のための円卓会議）に加盟しました。今後も広く情報を収集し、パーム油産業の健全な発展に努めていきます。

#### ● 情報管理

ウイルス対策やシステム運用体制の整備を継続的に進めていますが、想定外のウイルスや不正アクセスなどが発生した場合に被害を受ける可能性があります。

#### ● 資産運用

退職給付費用、退職給付債務の運用や、昭和産業が保有している株式は、社会情勢などの変化の影響を受け、昭和産業の財政状態に影響を及ぼすことが考えられます。

#### ● パンデミック\*

BCPなどにより、世界的な感染症拡大への対応方法を定めていますが、予想を超えた規模でのパンデミックが発生した場合に経営成績などに影響を受ける可能性があります。

\*パンデミック：感染症などの世界的、広域的な流行のこと

# コンプライアンス



【関連するSDGs目標と取り組み】  
コンプライアンスの徹底／独占禁止法への取り組み

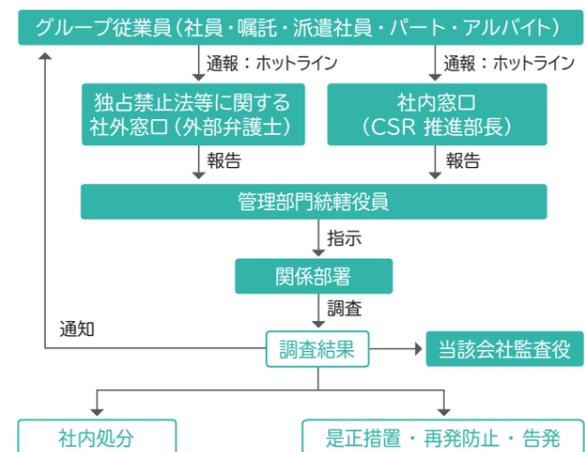
## コンプライアンス体制

昭和産業グループは、企業市民としての自覚を持ち、コンプライアンスの精神に則った健全な企業活動による収益の追求を通じて、継続的な発展に努めます。従業員一人ひとりがコンプライアンス実践者となり、より堅牢な組織としていくために、コンプライアンス委員会を設置し、推進体制の維持・強化と、啓発活動に努めています。

### ● 内部通報制度

「昭和産業グループ内部通報規程」のもと、通報者の保護や通報処理体制を定めています。社内窓口をCSR推進部長とし、特に独占禁止法などに抵触する可能性のある情報を得た場合の通報窓口として、顧問弁護士による社外窓口を設けています。昭和産業グループ全体における不正行為などの早期発見・是正を図ることで、コンプライアンス経営の強化につなげています。2017年度は1件を受信し、事実関係の調査などマニュアルに従った適正な処理がなされています。

### ■ 内部通報体制図



### ● 反社会的勢力との関係遮断

昭和産業は、反社会的勢力および関係のある団体や企業とはいかなる取引も行わず、利益供与は一切行っていません。

## コンプライアンス推進活動

### ● 独占禁止法、下請法への取り組み

「独占禁止法マニュアル」に基づいて、社外との交際における手続きと報告ルールの運用を徹底し、独占禁止法に抵触するものがないことを確認しています。

2017年度は、営業部を対象に外部講師（弁護士）による「最近の競争法の実務」と題したセミナーを実施しました。



コンプライアンスセミナー

### ● 個人情報保護規程を改定

「個人情報の保護に関する法律」の改正に合わせ、「個人情報保護規程」およびホームページ記載の「個人情報保護方針」を改定しました。

### ● 交通安全委員会の運営

全営業車に設置したドライブレコーダーの画像を使用した実践的な安全運転講習会を実施しました。また、独自にセーフティドライバーコンテストを開催し、安全運転意識の醸成にも努めています。

交通法規遵守徹底の取り組みの一環として、飲酒運転撲滅を目的に以下2点をルール化し、徹底を図っています。

- ① 運転前日は22時以降の飲酒を原則禁止
- ② 飲酒から運転開始前まで約10時間の間隔を空ける

# データ集

集計範囲：無印…昭和産業（株）、\*…昭和産業グループ連結対象会社17社（2018年3月31日現在。同4月2日に連結対象となったガーデンベーカリー（株）、タワーベーカリー（株）、スターベーカリー（株）の3社は含みません）

集計期間：年度（4月～翌3月）

## 消費者課題データ

### お客様相談センターへのお申し出件数

	単位	2015	2016	2017
お申し出件数	件	3,683	3,380	3,328
お問い合わせ	件	3,408	3,065	2,963
ご指摘	件	218	248	265
ご意見・ご要望	件	57	67	100

### 食品ロス削減

	単位	2015	2016	2017
フードバンクへの製品寄贈	kg	690	230	1,050

### 認証取得・国際的基準への取り組み状況（2018年3月現在）

昭和産業	認証取得・国際的基準への取り組み状況
鹿島工場	ISO22000 <sup>※2</sup> FSSC22000 <sup>※3</sup> （糖質工場、製油充填工場、潮来ミックス分工場） AIBフードセーフティシステム <sup>※5</sup> （製粉工場、たん白工場、製油充填工場、糖質充填工場、穀物サイロ、潮来ミックス分工場） ISO14001 <sup>※6</sup>
神戸工場	ISO22000 FSSC22000（製油充填工場、ミックス工場） AIBフードセーフティシステム（製粉工場、ミックス工場、製油充填工場） ISO14001
船橋工場	ISO22000 FSSC22000（ミックス工場、パスタ工場） AIBフードセーフティシステム（製粉工場、ミックス工場、パスタ工場） ISO14001
基盤技術研究所	ISO22000、ISO14001
商品開発研究所	ISO22000、ISO14001
本社技術部門	ISO22000

グループ会社	認証取得・国際的基準への取り組み状況
敷島スターチ（株）	ISO22000、FSSC22000
奥本製粉（株）	ISO22000、AIBフードセーフティシステム（製粉工場、ミックス第一工場、二色工場、パスタ工場）
木田製粉（株）	ISO22000、AIBフードセーフティシステム
（株）内外製粉	ISO22000、AIBフードセーフティシステム
セントラル製粉（株）	ISO22000、AIBフードセーフティシステム
昭和鶏卵（株）	ISO22000
昭和冷凍食品（株）	ISO22000、FSSC22000
（株）ショウレイ	ISO9001 <sup>※4</sup> 、ISO14001
田中製餡（株）	ISO22000
東葛食品（株）	ISO9001

※1 HACCP（Hazard Analysis Critical Control Point）管理：原料の入荷から製造・出荷までの全ての工程において、重要管理点を特定して、そのポイントを継続的に監視し、人に危害を与える製品の出荷を未然に防ぐシステム  
 ※2 ISO22000：安全な食品の生産、流通、販売を目的とした食品安全マネジメントシステムの国際規格  
 ※3 FSSC22000：FSSC（Food Safety System Certification）22000：ISO22000をベースに、食品安全を担保するために遵守すべき事項を明確化した食品安全システムの国際規格  
 ※4 ISO9001：品質マネジメントシステムの国際規格  
 ※5 AIB（American Institute of Baking）フードセーフティシステム：安全な食品を製造するためのガイドラインであるGMP（適正製造規範）を重視した「AIB食品安全統合基準」に則り、外部監査員が工場の現場検査を行う仕組み。フードディフェンス（食品防御）の考え方も取り入れた、以下の5項目の観点から監査が行われます。  
 ●作業方法と従業員規範 ●食品安全のためのメンテナンス ●清掃活動 ●総合的有害生物管理 ●前提条件と食品安全プログラムの妥当性  
 ※6 ISO14001：環境マネジメントシステムの国際規格

## 環境データ

### マテリアルフロー（昭和産業単体）

#### 主な投入物（事業活動のために使用するもの）

原材料		エネルギー	
小麦	535千t	購入電力	1,165TJ
大豆	407千t	石油	40TJ
菜種	311千t	ガス	948TJ
トウモロコシ	310千t	石炭	1,529TJ
合計	1,563千t	木質チップ	273TJ
		合計	3,955TJ

### 事業活動

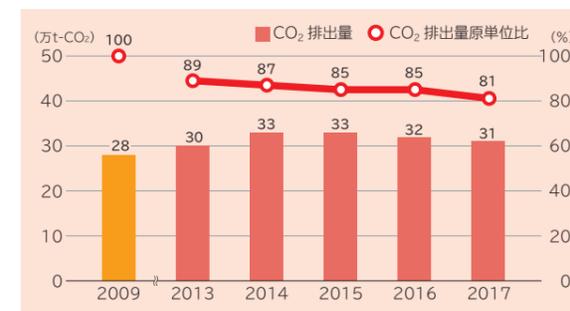
製品 （小麦粉、植物油、糖質製品など食品として）			食品循環資源 （食品製造の際に発生する副産物を主に飼料、肥料、工業用原料として活用）
製粉事業	油脂事業	糖質事業	
小麦粉	大豆油	糖化製品	小麦由来
19千t	76千t	222千t	111千t
パスタ	菜種油	でん粉	大豆由来
69千t	134千t	33千t	295千t
合計	9.1千t	酵素	菜種由来
525千t	6.6千t	1.0千t	173千t
	大豆たん白	合計	トウモロコシ由来
	9.0千t	256千t	88千t
	合計		合計
	235千t		667千t
	総合計		食品リサイクル率
	1,015千t		99.9%

### 排出物

二酸化炭素（CO <sub>2</sub> ）	排出物発生量	33千t	事業系一般廃棄物	0.13千t
生産部門	有価売却	2.1千t	排水	2,652千t
244千t	埋め立て処分	1.1千t	化学物質	460t
オフィス部門				
2.5千t				
物流部門				
30千t				
合計				
277千t				

**廃棄物リサイクル率 96.5%**

### CO<sub>2</sub>排出量（昭和産業グループ5社）



### 廃棄物リサイクル率（昭和産業グループ5社）



## 従業員データ

### 従業員データ

		単位	2015	2016	2017	備考
従業員数	連結*	名	2,048 (878)	2,103 (1,059)	2,139 (1,082)	( )内は臨時従業員の年間平均雇用人数
	単体	名	1,141 (100)	1,165 (103)	1,168 (106)	
従業員に占める女性割合		%	24.7	25.1	25.4	
平均勤続年数		年	16.1	16.1	16.1	
	男性	年	17.0	16.9	16.9	
	女性	年	13.2	13.6	13.8	
平均年齢		歳	39.1	39.2	39.3	
3年内離職者数		名	5	5	0	
総労働時間		時間	2,017	2,022	2,010	
年次有給休暇取得率		%	50.7	54.8	55.1	
新卒採用女性比率		%	24.0	34.8	51.9	
	技術系	%	23.1	38.5	58.3	
	事務系	%	25.0	30.0	46.7	
リーダー層に占める女性の割合		%	16.3	19.1	19.8	
管理職に占める女性の割合		%	3.3	3.6	4.0	
育児休業制度取得者数		名	27	35	31	新規取得者数 子女誕生の報告を会社へ提出した者のうち、育児休業を取得した者の割合
	男性	名	11	24	18	
	%	%	27	51	51	
女性	名	16	11	13		
	%	%	100	100	100	
介護休業制度利用者数		名	0	0	0	
短時間勤務制度利用者数		名	28	45	44	
障がい者雇用率		%	1.8	1.9	2.1	
定年再雇用者数		名	46	54	65	

### 労働災害発生件数

	単位	2013	2014	2015	2016	2017
不休業災害	件	6	7	10	9	4
休業災害	件	0	6	2	1	2

※従業員のみ、協力会社などは含まず

## TOPICS

### 「内定式天ぷら研修」

日本初の“天ぷら粉”を発売した当社ならではの研修として「内定式天ぷら研修」を実施しています。2017年10月の内定式終了後、2018年度入社予定の内定者34名が参加し、実際に天ぷらを調理しました。入社前に一つでも多く昭和産業のことを知ってもらい、入社前と入社後のギャップをなくしてもらう目的で、2016年から実施しています。前年にこの研修に参加した従業員に加え、役員もアドバイザーとして参加し、内定者と一緒に天ぷらを揚げるなど交流を図りました。



## 会社概要

社名 昭和産業株式会社 (Showa Sangyo Co., Ltd.)  
 設立 1936年(昭和11年)2月18日  
 本社 東京都千代田区内神田2丁目2番1号  
 資本金 12,778百万円

### 【事業所】

大阪支店/名古屋支店/仙台支店/札幌支店/福岡支店/広島支店  
 /関東信越支店/千葉出張所  
 鹿島工場/鹿島工場 潮来ミックス分工場/神戸工場/船橋工場  
 /基盤技術研究所/商品開発研究所/飼料技術センター

### 【主なグループ会社】

●連結子会社 ○非連結子会社 ◆持分法適用会社  
 ※2018年4月2日付で連結対象となりました

#### 販売

● 昭産商事(株)

#### 食品生産

- 奥本製粉(株)
- 木田製粉(株)
- (株)内外製粉
- セントラル製粉(株)
- 敷島スターチ(株)
- 昭和冷凍食品(株)
- (株)スウィングベーカリー
- グランソールベーカリー(株)
- ガーデンベーカリー(株)※
- タワーベーカリー(株)※
- スターベーカリー(株)※
- (株)菜花堂
- (株)ファミリーフーズ
- ◆ 新日本化学工業(株)

#### 外食

● (株)オーバン

#### 飼料生産

● 九州昭和産業(株)

#### 鶏卵販売

● 昭和鶏卵(株)

#### 倉庫

- (株)ショウレイ
- ◆ 鹿島サイロ(株)
- ◆ 志布志サイロ(株)
- ◆ 名古屋埠頭サイロ(株)

#### 不動産賃貸業

● 昭産開発(株)

#### その他

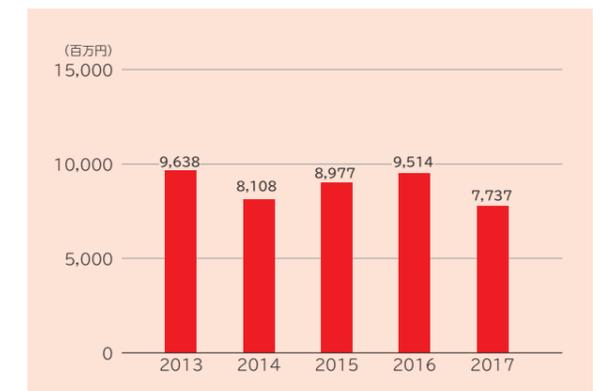
- (株)昭産ビジネスサービス
- 昭産運輸(株)
- 岡田運送(株)
- Showa Sangyo Vietnam Co., Ltd.

### 【財務ハイライト(連結)】

#### 売上高



#### 経常利益



### 【国内生産3拠点】



#### 鹿島工場

パナマックス級の大型穀物船が接岸できるバースを備え、物流面でも大消費地の東京から約80kmの好立地にある主力工場

所在地:茨城県神栖市(鹿島臨海工業地帯)  
 敷地面積:約403,600m<sup>2</sup>  
 (第2工場・潮来分工場を含む)  
 生産品目:小麦粉/植物油/コーンスターチ・糖化製品/大豆加工品/プレミックス



#### 神戸工場

神戸港の東にあり、パナマックス級の大型穀物船に対応したバースを有する西日本の製造・物流拠点

所在地:兵庫県神戸市  
 敷地面積:約73,000m<sup>2</sup>  
 生産品目:小麦粉/プレミックス/植物油



#### 船橋工場

製粉工場を中心に小麦粉の二次加工を担う、首都圏の製造・物流拠点。敷地内にはRD&Eセンターを併設

所在地:千葉県船橋市  
 敷地面積:約74,000m<sup>2</sup>  
 生産品目:小麦粉/プレミックス/パスタ

